

# 平成29年度栃木県養護教育研修会開催 (481名参加)



期 日 平成29年10月31日(火)  
会 場 栃木県総合文化センター大ホール



1 会長あいさつ 栃木県養護教育研究会会長 渡邊 恵美子

2 来賓あいさつ 栃木県教育委員会事務局 健康福利課長 野原 正祥 様

## 3 研究発表

(1) 「関係機関と連携した就学時の健康診断 ～適正な就学とよりよい支援を目指して～」

発表者 茂木町立逆川小学校 渡辺 恭子 先生  
茂木町立茂木中学校 永島 紀子 先生

(2) 「短時間でできる指導の工夫

～児童生徒の実態をふまえた資料づくり～」

発表者 矢板市立川崎小学校 深澤さやか 先生  
矢板市立豊田小学校 臼井 美帆 先生



## 4 指導・助言

(1) 「茂木町養護教諭部会の取組について」

栃木県教育委員会事務局 健康福利課副主幹 小平 亨子 先生

○就学時の健康診断は、就学を予定している幼児や保護者にとっても大変重要である。

○4歳児健診に学校職員が参画し、子供たち一人一人の特性を入学前に詳しく把握し、適切な支援の方針を立てているため、子供や保護者が安心して入学できる環境が整っている。

○茂木町養護教諭部会の研究内容は、就学時の健康診断以外にも生かせるものであり、また他地区の先生方にとっても大いに参考になるものである。

(2) 「矢板市学校保健研究会の取組について」

栃木県総合教育センター指導主事 山口 昌子 先生

○養護教諭の執務内容の多様化、時間に追われる日々の中から短時間でできる指導の工夫は重要な取組である。

○現代的健康課題を抱える子供たちへの支援

～養護教諭の役割を中心として～(平成29年3月)の第1章「健康な生活を送るために、児童生徒に必要な力」4項目に対応している。

○成果と課題の設定も、実践から得られたものであり、児童生徒の健康を守るためにも継続した指導を目指していただきたい。

## 5 内地留学報告

「教室に行けない子どもたちへの支援 ～保健室でできる援助の方法を考える～」

栃木市立藤岡第一中学校 秋山 有梨 先生

## 6 講演「保健室は“困っている子”を支える最前線」

講師 ノンフィクションライター 秋山 千佳 先生

○保健室が学校の中にある意義→子供にとって一番身近な公的機関  
保健室にいて痛感することは、学校は学力を付けるだけの場所ではない。困難を抱える子にとっては、もっと大切な役割がある。

・自己肯定感を育むこと ・社会性を身につけること

○子供を育む「手間ひま」三つのポイント

・子供の持つ力を「信じる」 ・その力を出せるまで「待つ」

・ゆっくりと自己肯定感を育めるように「寄り添う」

補足すると・・・生徒に慕われる養護教諭は「いい加減」な先生？

→「いい加減」ではなく「良い加減」



今回の研修当番地区は芳賀地区でした。御協力を頂き、ありがとうございました。